

技能評価システム移転促進事業(SESPP)は日本式技能評価のノウハウを移転するため、ベトナム、カンボジア、インドネシア、ラオスを対象に日本の専門家によるセミナーや技能評価トライアルを実施しています。事業の運営事務局を株式会社 J T B 霞が関事業部が受託しております。日本式の技能評価の活用促進が図れるよう、J-Skills Newsでは、事業の取り組みなどお知らせしています。(年3回発行)

□研修レポート

■ベトナムにおける機械検査2級の技能評価トライアル(SET)、技能評価者認定(SAC)

2025年9月19日(金)～9月22日(月)に機械検査2級の技能評価トライアル(SET)及び技能評価者認定(SAC)がドンナイ大学にて実施されました。今回は本職種の集大成となる評価者認定を実施する研修となるため、認定候補の評価者を中心に例年以上に熱の入った研修となりました。

SETでは10名が評価者となり、受検者は12名でした。

受検者中、2名がみごと合格しました(学科試験11名中8名合格、実技試験12名中2名合格)。

SAC対象の評価者は8名で、8名全員が評価者として認定されました。

講師の稲川文夫氏(SESPP事務局技術顧問)から、①評価者については、『今回のSETはSACを兼ねるため、専門家による指導や指示を可能な限り控えて、彼等のやり方を観察しながら実施した。主任評価者の指示のもと、全員が分担された役割をスムーズにこなせていたことを確認した。正解値の測定作業では、ダブルチェックで測定結果を複数回確認しながら進めており、もし不一致の場合は、手順通り、第三者(主任評価者)による確認がなされていた。』、②受検者については、『前回と比較すると学科試験の合格者が増えており、受検者の間で受験対策が取られていることがうかがえる。この結果は、企業の担当者の関心や受検者の受検意欲を高めることになるので、試験準備講習に係る取り組みを継続して、レベルの高い受検者が増えていくことを期待する。』、③改善点として『機械検査は、精密測定作業で構成されるので部屋の温度管理がとても重要である。しかし、ドアの開け閉めが不十分で、閉め忘れが散見された。閉め忘れた者に注意して必ず閉めさせる等、評価者全員でドアの開け閉めに敏感に対応する習慣を身に付けてほしい旨、指導した。』との講評がありました。

参加者からは、『本事業で学んだ技能をより多くの教師や企業に知ってもらうために、さまざまな場所で展開していきたい(現地責任者)。』、『事業を継続してほしい(評価者)』等の感想と、希望職種として、『フライス盤、金型、機械製図(CAD作業)、CNCフライス盤』などが挙げられました。

なお、機械検査2級の検定を実施するには最少でも10名の評価者が必要となります。今後のベトナムでの自主的な人材育成を期待します。



専門家による講義風景



技能評価トライアル実技試験風景



評価者認定面接試験風景

■ベトナムにおける機械製図(CAD作業)3級の技能評価者講習(SAT)、技能評価トライアル(SET)

2025年10月6日(月)～10日(金)に機械製図(CAD作業)3級の技能評価者講習(SAT)及び技能評価トライアル(SET)が東部国際大学(EIU)の先進製造センター(AMC)で実施されました。ベトナム南部エリアでの現地研修は、実質今回が初めてとなります。

講師は西谷賢二専門家(パナソニックホールディングス株式会社)にご担当いただき、SAT受講者は8名、SETの評価者は11名が参加し、9名が受検しました。SETでは受検者9名のうち、4名が合格しました。

講師の西谷専門家からは、『ベトナム・ホーチミンにおいて、第1回目の機械製図CAD作業3級のSAT・SETを実施した。SATは、全員機械工学の大学講師ということで、SETの事前準備や運用については手慣れた感があり、何ら支障なく進めることができた。一方、採点の進め方では、JIS規格に関する内容は熟知していないようだったので、まずは機械製図のルールを理解してもらい、効率的な採点の進め方について指導した。SETは、日系企業6名と大学講師3名が受検し、合格者4名ということで、初回にしては上出来だと感じた。次年度以降も受検者が増えることを期待する。』との講評をいただきました。

受講者からは、『より多くの人に参加すべきである(現地責任者)。』、『次年度は合格できるよう再度挑戦したい(受検者)。』との感想が寄せられました。

研修を実施した東部国際大学は、ビンズオン工業団地を運営するBecamex社と提携して、先端技術の研究開発、工業団地入居企業の従業員向けの技術訓練等を実施しており、ベトナムの人材育成の一翼を担っている教育機関です。



技能評価者講習講義風景



技能評価トライアル実技試験風景



評価者による採点作業風景

■ラオスにおける配電盤・制御盤組立て作業2級の技能評価トライアル(SET)

2025年10月20日(月)～24日(金)に配電盤・制御盤組立て作業2級の技能評価トライアル(SET)が技能開発院(SDI)で実施されました。

講師は萩生田幸男専門家(高和電気工業株式会社)にご担当いただき、評価者はSDIやビエンチャン技能開発センター(VSDC)を中心に10名で、受検者は企業から3名が受検しました。受検者3名中、学科試験には1名合格しましたが、実技試験での合格者は出ませんでした。

また、認定評価者となるための要件である技能評価者講習(SAT)を昨年度受講できなかった4名が、新たに今回のSAT補講を受講することが出来ました。

講師の萩生田専門家からは、『今年度は関係者と協議の上、2級のSETを実施する事とした。また、2級のSETは初めてのため、昨年実施したSATのポイントを補講することでSATの復習もできた。今回2級のSET学科試験では合格者も出たことから問題的にも良かったが、実技試験問題では器材の調達で仕様確認不足等が前日にわかり、急遽接続図を変更して実施した。また、実技試験中に器材の不具合が発見されたためロスタイムを追加して対応した。』

受検者は実技試験の練習があまり出来ておらず、1名未完成で2名は不合格となった。最後に受講者と反省会及び意見交換を実施出来た事で次回以降に活かしてもらえらると思う。受講者には2級SETの準備・運営並びに採点・評価を理解してもらおうことが出来たと感じている。』との講評をいただきました。

参加者からは、『非常に有益なので、研修を継続して実施してほしい(評価者)。』、『高度なレベルの試験であるため、試験実施前に受検者への事前研修を実施する必要性を強く感じた(現地責任者)。』との感想が寄せられました。



専門家による講義風景



技能評価トライアル学科試験風景



技能評価トライアル実技試験風景

■ ラオスにおける機械検査3級技能評価者トライアル(SET)

2025年11月3日(月)～6日(木)に機械検査3級の技能評価トライアル(SET)が技能開発院(SDI)で実施されました。

講師は稲川文夫氏(SESPP事務局技術顧問)が担当し、SDIを始め職業訓練施設の指導員を中心に7名が参加しました。今回は参加した評価者が、交代で受検者も兼ねる形でSETを実施し、受検者6名のうち1名が合格しました。

稲川氏からは、『評価者に対して、試験時の温度管理の重要性の説明とドアの開閉の際は確実に閉めること、測定機器、測定機材の保守管理の徹底について特に指導した。SDIに対しては、最低8名、出来れば10人の評価者が参加してトライアルを実施すること、受検者は企業から参加してもらえよう働きかけること、同じ人材が継続して研修に参加することを要望した。』とのコメントがありました。

また、参加者からは、『講師の指導がとても分かり易く、自身の知識向上につながった。』、『民間の製造現場や他の職業訓練施設での機械検査の研修の実施を希望する。』といった感想が寄せられました。

ラオス政府は、ラオス商工会議所と連携して、企業で勤務する技能者への技能評価の定着を図っていくとのこと。ラオスで技能評価制度の定着と技能労働者の技能向上及び地位向上に期待して参りたいと思います。



専門家による講義風景



技能評価トライアル学科試験風景



技能評価トライアル実技試験風景

□ラオスで2025年度現地事業評価を実施

SESPP事業の効果的・効率的な実施を図るため、対象国における技能労働者のニーズの把握、広報手法や取組職種・等級の検証、中長期的課題の把握等を行うことを目的として、活動対象国であるラオスと11月7日(金)に官民合同委員会が開催されました。参加メンバーは労働社会福祉省技能開発院、現地職業訓練施設、厚生労働省、SESPP事務局及びその他本事業に関係する者で構成され、当年度事業の実施状況や成果、次年度実施に向けた提案、意見交換等が行われました。

■ラオス

日時 参加者	2025年11月7日(金) ラオス時間9:00-11:30 技能開発院(SDI)、ビエンチャン技能開発センター(VSDC)、ラオス電力公社(EDL)、ラオス商工会議所(LNCCI)、厚生労働省、ラオス日本人商工会議所、JETRO、JICA、SESPP事務局
参加者数	21人
本年度の実施内容	技能検定 ・配電盤・制御盤組立て作業2級 技能評価トライアル(SET) ・機械検査3級 技能評価トライアル(SET)
次年度の職種に係る提案内容	技能検定 ・目標：SESPP協力職種の国家検定の構築 ・活動：2025年事業のフォローアップ {SET、技能評価者認定(SAC)} 職種案：配電盤・制御盤組立て作業2級SET、機械検査3級SET/SAC
今後の取り組みに向けた意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ラオス政府は技能検定、技能評価制度の構築に向けて、法令の整備や手順書の作成に取り組んでおり、それらに基づき評価者の育成、認定も進めている。また、技能検定基準の整備も進めており、現在44職種の基準がある。(SDI) 労働社会福祉省は、5か年計画として、25万人(国家技能検定で5万人、民間企業、民間団体の基準に沿った民間検定で20万人)の技能評価を実施する計画がある。(SDI) ラオスでは、技能検定の認知度が民間企業では未だ低いため、ラオス商工会議所(LNCCI)と協力の上、民間企業へ技能検定を浸透させる取り組みを行う予定である。(SDI、LNCCI) 2026年度に関しては、現在実施中の配電盤・制御盤組立て2級、機械検査3級に加え、建設分野の需要が高まっており、南部・中部・北部の訓練センターで訓練を実施していることから、新職種として左官職種の要望があった。(SDI)

ラオス以外の支援対象国である、ベトナム、カンボジア、インドネシアとの官民合同委員会の様子については、次号でご報告いたします。

『J-Skills News』に関するお問合せ

SESPP事務局 (株式会社JTB 霞が関事業部)

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階
TEL : +81-3-6737-9263 FAX : +81-3-6737-9266
担当 : 近藤・加藤・岩下
E-mail : sespp@jtb.com